

# ひかりのこ

## 4月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2016年4月8日

### 月主題：安心して

#### 『迎える心』

雪が融け、木々の芽が膨らみ、新しい1年がはじまりました。植物も動物も新しい命を育むために準備を始めています。

つい先月、立派に成長した年長さん30名が、この聖ミカエル幼稚園を巣立っていきました。また、年少さん、年中さんのそれぞれ1名のお子さんが転園によりお別れをしました。そして4月、幼稚園に新たな仲間を迎えます。年少さん28名、年中さん3名、年長さん1名を迎え、87名のスタートになります。

私たち幼稚園の職員の春休みは、新年度の準備に毎日追われました。毎日忙しく、帰る時間が遅くなることもしょっちゅうでした。「師走」は、12月の別称ですが、私たち教師にとって一番忙しいのは4月かもしれません。それもひとえに子ども達のため。私たちの毎朝のお祈りには、いつも子ども達が出てきます。「天のお父様、毎日忙しい日が続きますが、どうぞ私たちがいつも『子ども達のために』心を尽くして準備ができますように。私たちの心と体をお守りください。」こんな風にお祈りをしています。とても忙しいけれど、子どもたちの小さくかわいらしいお目々やお手々を思い浮かべて、一つ一つのお仕事を心を込めます。

新しい年中さんや、年長さんになるお友達もそうでしょう。3月の修了式に「4月には、小さな年少さんが入園してくるけど、きっと『え～ん、おかあさ～ん。』って泣いてくると思うんだ。みんなどうする？」と問いかけると「抱っこしてあげる！」「大丈夫だよって言ってあげる！」と頼もしい声。去年の年中少さんも、そのまた前の年中少さんも、入園してくる君たちのために同じセリフを言っていたのだよ、と私は心の中でつぶやいていました。幼稚園のお兄さん、お姉さんに優しくしてもらった経験があるから、同じように小さい人に優しくできるのでしょ。とても素敵な子ども達です。年中長のお父さん、お母さん方も、きっと同じお気持ちでいてくださると思います。新しい仲間を心から歓迎するムード。聖ミカエル幼稚園は、何年たってもこの雰囲気はずっと受け継がれています。

新入園、途中入園のお父さん、お母さん、どうぞ安心されて聖ミカ

エル幼稚園にお子さんをお預けください。そして、ご自身もこの幼稚園で、たくさんお友達を作り、子育てを楽しんでいただきたいと思います。何か困ったことがあったり、お話をしたいことがあったりするときは、どうぞいつでも職員や先輩お母さん、お父さんにお声をかけてください。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「謎があってこそ」

大人は子どもに何かを隠している…。この謎は私が子どもだったころ、いつも頭の中を支配していました。周りの大人たちは、子どもには絶対に知られてはならない共通の秘密もっている。だから大人は急に怒り出したり、優しくしたりするのだと。そうでなければ、大人たちの、あの奇妙な態度は説明できないと、私は中学に入る頃までそう信じていました。やがて大人になる頃、ある日自分は親に呼ばれ、今までお前には内緒にしてきたけれど、実は人間には男と女の他に別の姿があるとか、もうすぐ世界は終わるとか、地球には別の星から来た生き物がいるとか、そういう重大発表が行われると思ったのです。しかし、待てど暮らせどその日は来ませんでした。秘密なんてなかったのです。

いま、自分が大人になってみると、むしろ秘密は子どもが握っています。人はなぜ生きるのか、幸せとは何か、人間関係をどう保つのか、そういう大切なことは、子どもからヒントをもらうことが実に多く、子どもこそ謎のかたまりです。

親でさえ自分の子どもが謎に見えるということは、聖書の考え方からすれば当然のことです。人間は神に似せて造られました。人間が逆立ちしても神のすべてを理解できない以上、それに似せて造られた私たちは、たとえ親子であってもお互いを完全に把握することはできません。この分からない部分こそ、神さまから与えられた、その人だけの賜物（たまもの）であり、そこに敬意を表すべきでありましょう。

毎日顔を合わせていても、いつも違う発見がある。それは家庭でも幼稚園でも、子どもたちと接する中で経験することです。相手の中にある秘密や謎は、神さまからの贈り物。それを大事にしたい。わくわくどきどきの新年度の始まりです。

チャブレン 司祭 下澤 昌